

# と し ょ か ん つ う し ん と 書 館 通 信

発行 ● 豊島区立中央図書館

東京都豊島区東池袋四一五二

ライズアリーナビル四階・五階 〒170-8442

電話 ● 03-3983-7861

FAX ● 03-3983-9904

ホームページ ● <http://www.library.toshima.tokyo.jp/>

発行日 ● 平成28年1月



## トピックス

- 巻頭言 マンガ家 水野英子……………1ページ
- 古い本、新しい話 尾崎真理子……………1ページ
- 図書館と私 中央図書館奉仕員(司書) 斎藤祐太……………2ページ
- 生涯の一冊 大正大学人間学部教授 宮崎牧子……………2ページ
- この本カフェ……………2ページ
- 絵本で会いましょう 風木一人……………3ページ
- 環境対策を先導する環境庁舎……………3ページ
- 図書館イベント情報・図書館カレンダー……………4ページ

第39号  
季刊(冬)  
2016

## 私の人生を決めた一冊の本

その本は貸本屋の棚にありました。

小学生の頃 私は児童向けの世界文学全集等はほとんど読み終し、本であればとにかく手に取って見る本好きな子でした。

私の家の向いに貸本屋があって、学校から帰るとカバンを放り出して10円をにぎり本屋に駆け込むのが日課です。当時はマンガの単行本が全盛で、少年物の時代劇や探偵、活劇物等が主でしたが、ある日オヤ？と思う本を見つけました。普通の本はだいたい1センチもない厚さでしたがその本はとて厚く目立つのです。題は『漫画大学』。何だろ？と手に取って見

たのが運の尽きでした。

その本は5、6本の短・中編マンガと「コママンガから成る本で、それらを手本に丸々とした大学教授がマンガの描き方を教える本だったのです。きれいで楽しくていねいに描かれた絵、すぐに借りました。それはSF、ミステリー、西部劇、メルヘン、あらゆるジャンル物語がある今までに見た事もない本でした。その話の一つ一つがなんて面白く深い意味を持っていた事！私は凄くショックを受けました。しかもマンガの描き方まで描いてある。この瞬間私は迷いもなく自分もマンガ家になる！と決心をしたのです。小学3

## 地域図書館の休館日を月2回にします

### 新航路【37】

昨年1月にリニューアルした豊島区立図書館のホームページでは、トップページの一番上に区立図書館7館の施設案内を設けています。館のキャラクターにマウスオンするだけで、当日の開館情報が案内できるようにしました。この機能は便利で利用者みなさんにたいへん喜ばれているようです。

それにしても、たまのお休みを図書館で過ごすという経験をお持ちのみなさんも多いと思います。

休館日を少なくしてほしい、というのが利用者みなさんの大きな要望であり、また図書館を運営する側からは優先課題の一つであることに間違いありません。そこで豊島

区立図書館も休館日を縮小して、月2回の休館日の体制にする予定です。定例休館日と館内整理日の2回です。現在は、中央図書館のみ月2回の休館日としていますが、6館の地域図書館も段階的に、平成28年度は東側3館(巣鴨・駒込・上池袋)について、29年度には西側の3館(千早・池袋・目白)について変更します。図書館の運営体制を一部指定管理者に変更しますので、少し慎重に2年間かけて段階的に実施していきます。

なにとぞご理解いただきますとともに、ご期待ください。(開館日等の詳細は別にホームページ等でご紹介します。)

## 古い本、新しい話 6

### 詩人二人の長い戦後

尾崎 真理子

「折々のうた」で知られた大岡信さんといえば、夏の主役が似合う「陽」の人。同じ一九三二年生まれの谷川俊太郎さんは、かつて大岡さんに「離群症」と評されたほど、一人を好む人である。対照的な二人の詩人だが、茨木のり子、川崎洋が始めた詩誌「樺」を通じて知り合ってから、六〇年以上も水魚のごとき交わりを保ち続けてきた。

この数年、故郷静岡県内で療養中の大岡さんのために、昨年、谷川さんは大きな贈り物を届けた。一六〇頁を超える大岡さんの全詩集から、一冊のアンソロジー「丘のうた」を丁寧に編んだのだ。そこには「初秋午前五時白器の前にたたずみ谷川俊太郎を思つてうたふ述懐の唄」と題した、七六年に作られた詩も含まれている。

「君のことなら／何度でも語れると思ふよ おれは／どんなに醜くがんだ日にも／君のうたを目を逐ふと／涼しい穴がぼかりとあいた」

「死ぬときは／たいいていの人が／まだ早すぎると嘆いて死ぬよね／君はどうかかな？／おれは？」

先月まで世田谷文学館で催された「大岡信展」の公開討論の席で、谷川さんは盟友と自分を対比してこんなふうに述べた。「大岡は字を書くのも学校も好き。俺は両方キライ」詩の長い歴史の先っぽにいてと自覚していたのが大岡。僕は地図の中の一点、今、ここしかない。

振り返れば共に現代詩の最前線を拓いてきた長い日々。八七年、ベルリン芸術祭で二人がドイツの詩人と四日間、連詩の創作に挑んだ際には大いに話題になった。その時の格好いい壮年期の写真も展示されていた。あの頃、戦後文化は最高潮に達したのかも知れない。時は流れる。

谷川さんは「微塵をおひて」という新作を親友に書き下ろした。ほぼ四〇年を経て書いた、親友への返礼の詩だ。

「おおおあ／おれたちいなくなっちゃうんだろうか」

「おおおあ／早すぎるとはもつ思わない」

今、両氏の詩集をできる限り初期のものから読んでいる。戦後七一年目の年を、そうしながら迎えたいと思っている。

(読売新聞文化部)

山口県下関市出身。小学3年の時に手塚治虫先生の強烈なファンとなりマンガの投稿を始める。1955年雑誌「少女クラブ」にデビュー。1958年トキワ荘に入居。石ノ森章太郎、赤塚不二夫と合作の仕事をする。

代表作『星のたてごと』『白いトロイカ』『ファイヤー』等。

マンガ家  
水野 英子  
みずの ひでこ



# 生涯の一冊

(38)



書名:『居住福祉』  
著者: 早川和男  
岩波新書  
1997年

大正大学教授・学長補佐(豊島区共創事業・男女共同参画担当)  
みやざき まきこ  
**宮崎 牧子**



1997年大正大学人間学部専任講師として着任、現在に至る。

現在、西巣鴨地域を中心に、学生と一緒に、区民ひろばの活動や学生出前定期便、介護予防活動の支援などに取り組んでいる。

## 『居住福祉』

二一世紀にはいり、わが国の高齢化率は年々上昇し、二〇一四年一〇月一日現在で、二六%と世界で最も高くなっています。また平均寿命も男性八〇・二一歳、女性八六・六一歳とともに世界でトップクラスとなっています。その一方で、合計特殊出生率は一・四三三(二〇一三年)であり、なかなか上昇していません。こうしたわが国の状況にあって、市民の方々が、とりわけ社会福祉分野に関心を寄せるのは当然だと思えます。私は社会福祉を専門にしていますが、本書を推薦した理由は、社会福祉の大前提にある「住まい」に対する市民の意識を変えることこそが、ひいては、社会福祉

を受ける側にとっても重要であるとの思いからです。本書には、高齢社会やホームレス問題、災害など様々な問題に直面している現代社会にあって、「住まい」をどのように考えるか、重要な問題提起がなされています。読んでいくと「住まい」の問題が極めて重要であることが分かります。たとえば、現在の介護保険制度では、厚生労働省によって、「高齢者が、住み慣れた地域で安心して暮らしていくことができるよう」医療、介護、予防、住まい、生活支援サービスを一括し提供することをめざしている。自治体による地域包括ケアシステムづくりが進められていきます。ここには「住まい」という言葉がありますが、「箱モノづくり」だけではダメだということです。この本を読めば良く分かります。

著者も言うように、「人間にふさわしい居住」こそが、「いのちの安全や健康や福祉や教育や本」の豊かさや人間としての尊厳を守る「基礎」であり「安心して生きる社会の基盤」です。書名の『居住福祉』は、私の恩師である一番ヶ瀬康子と著者が議論する中で生まれています。社会福祉の第一人者であった一番ヶ瀬が生前、「在宅福祉を進めていくには、在宅の宅すなわち住まいが非常に重要である」と語っていたことも思い出されます。市民の生活の基盤である「住まい」の大切さを理解し、安心・安全に暮らせる地域社会をつくるためにも、本書を多くの方々に読んでいただき、豊島区のみならず、地域福祉の充実に役立てられることを願っております。



# 図書館と私 26

中央図書館  
図書館奉仕員(司書)  
斎藤 祐太

## 一味違う青い果物

刺さるような日差しの中、約2ヶ月間の夏期講習を経て司書の資格を取得したのが、早いものでもう3年以上も前になる。間違いなく大学在学中よりも勉強漬けになりながら、同じ志を持つ友人も得ることが出来た。なにぶん司書の資格取得を希望するのは女性が多く、受講者の9割近くは女性であったとなれば、数少ない男性受講者は意図せず一夏の思い出も取得したものだが、その話はまた別の機会とする。

さて、そんな司書講習で聞いた話の1つに、「今後図書館員が目指すべき姿」といった内容のものがあった。インターネットや電子書籍の普及に対してどう向き合うか等の話の中で、今も自分の中に活きている言葉が「今後の図書館員は情報のスペシャリストであるべきではないか」というものだ。

手書きの貸出カードに貸出期限を押印していた頃は、図書館の蔵書や流通している本こそが図書館員の全てであったが、調べ物がインターネットに直結するような昨今、インターネット上にある無数の情報を検索する力

や、そこから得た情報を精査する力も図書館員は無視できないというものであった。

これには大きな衝撃を受けたと同時に、何とかできるかもしれないという自信を持つことが出来た。というのも図書館業界は、蔵書の把握等知識の積み重ねが重要であると考えられ、つまりは経歴の長い者や経験者ほど重宝される世界であり、新参者は狭き門をくぐった後にそこからステップアップを重ねていく、そんな業界なのである。

ここきて今後は情報検索能力が必要になってくるとなると、逆に若い世代ほどインターネットや情報端末には造詣が深く、それを武器に門をくぐる事が可能ではないかと考えたのである。結果、大学図書館勤務を経てどうにか豊島区の中央図書館まで辿りつくことができた。

利用者の皆様、わたくしはまだ勉強中の身ですが、何かお調べ事があればレファレンスカウンターで若い力も頼ってみてはいかがでしょうか？



5杯目

## サルの本

今年の干支は申。ほかの動物たちの中で特に人間が「気にしている」存在が、サルだ。もちろん、動物学上はヒトもサル的一种。だから、今年は人間の干支年と言ってもよい。猿芝居、犬猿の仲、猿真似、猿知恵など、サルを引き合いに出して人間を揶揄する言い回しほど、身につまされるものはない。我が身を省みることができるのも、「読書をするサル」ならではないこと。今年こそ、たくさん本を読もう。

今回のテーマ



### 書名『あなたはボノボ、それともチンパンジー?』

古市剛史 / 著 朝日新聞出版 2013年

ヒトが一番近いとされるチンパンジーとボノボは外見では区別できないほどよく似ているが、その性格は全く違う。オスが主導し攻撃的な社会を作るチンパンジーに対し、メスがリードするボノボの社会は平和だ。戦争や殺戮を繰り返してきた歴史を見れば、ヒトは攻撃性の方が強い。そしてその抑制能力はたかが知れている。

今後、人口が増大し生存競争が激しくなっていく中で、なにが起きるかわからない。自分の中にあるチンパンジー性とボノボ性。私たちはこの時代を乗り切るためにどちらを育てていくのだろうか。人類に選択を迫る一冊だ。⇒【高橋 和子(たかはしかずこ)】



### 書名『父という余分なものーサルに探る文明の起源』

山極寿一 / 著 新潮文庫 2015年

ヒトの体を構成する遺伝子は、チンパンジーやゴリラと1%余りしか違わない。一方、オランウータンとは、ヒトもチンパンジーもゴリラも2%前後の違いがある。私たち人間は、オランウータンもゴリラもサルとしてつい一緒にしてしまうが、両者は違う。

本書は、類人猿から人類に至るまでの過程で家族がどのように生まれ、余分な「父親」という機能がどのように誕生したか、主にゴリラの「性」と「食事」の2つの方向から分析している。あたたかみシャーロック・ホームズの推理を読んでいるような鋭い論理展開は、驚くほど面白い。申年の皆さん、私たちの行動の深層心理をゴリラから学んでみませんか? ⇒【石関 慎一(男) (いしげきしんいち)】



### 書名『おかあさんともりへ』

ケイト・バックス / 文 ゲオルグ・ハンスレーベン / 絵 さくまゆみこ / 訳 講談社 2002年

ひびの赤ちゃんバブーンが、お母さんと一緒に森へ出かける。そこには、感じるものすべてが新鮮な「世界」がある。カメが歩くのを見て世界はゆっくりだと感じ、山火事のそばで世界の熱さにふれ、草の上では世界の柔らかさを知る。別の親子を見て「あの子ども世界なの?」と問いかけるバブーンに、「そうよ。そしてお前もね」と返すお母さん。

本書は「ベネロ」シリーズでも知られるゲオルグ・ハンスレーベンが1994年に出版した初の子供向け絵本。やわらかな絵と文が特徴だが、世界は観察と問答で構成されていくものでもありと教えてくれる、とても深い哲学的な作品だ。⇒【佐藤 壮広(さとうたけひろ)】



寄稿者はしましコミュニティ大学の学習者の内、登録して学んでいる「マナビト生」です。人類学者 佐藤壮広氏のご指導をいただきながら、毎回テーマに合わせた文学、児童書、評論や科学の分野のお薦め本を1冊紹介しています。

# 絵本で会いましょう

(全4回) 第3回

風木 一人 (かぜき かずひと)



東京都生まれ。絵本作家・翻訳家。創作に『うしのもーさん』、『ぬいぐるみおとまりかい』、『ふしぎなトラのトランク』、『ながいながいへびのはなし』など、翻訳に『こぼんくまん つぎへいく』、『おおきな木のおはなし』などがある。池袋コミュニティ・カレッジで絵本講座開講中。  
http://www.geocities.jp/kzk227/

## ぬいぐるみおとまりかい

2010年の12月、インターネットで面白い写真を見つけた。大きなソウのぬいぐるみが、小さなぬいぐるみたちに絵本を読んであげている。英語のブログで、かんたんな説明しかありませんでしたが、とうやらアメリカの図書館で行われたイベントを紹介する記事のようでした。興味を持って英語・日本語双方で検索をかける、いろいろわかつてきて、これが「ぬいぐるみおとまりかい」との出会いでした。

「お存じない方のためにどのようなイベントか説明いたします。まず、子どもたちにお気に入りのぬいぐるみを持って図書館に来てもらいます。いっしょにお話を楽しんだあと、子どもたちは帰る、ぬいぐるみだけが図書館に残ります。閉館後の静まりかえった図書館で、あら不思議、ぬいぐるみ



夜の図書館で本棚の整理をしているぬいぐるみたち (駒込図書館)

日お迎えに来た子どもたちに写真をプレゼントすると同時に、ぬいぐるみたちが気に入った絵本を紹介するのです。なんと夢のある企画でしょう！

## 発祥と広がり

幼いうちから本と図書館に親しんでもらうことを目的に、アメリカの図書館で始まったイベントのようです。それほど昔からあるものではなく、ほくが調べた限りでは2006年が一番古い記録でした。参加者からの大好評をうけ、図書館員のあいだで口コミで広がり、2009年ごろから開催数が一気に増えていきます。

日本ではというと、国立国会図書館の情報サイト「カレントアウェアネス・ポータル」でアメリカの事例として紹介されたのをきっかけに、2010年11月・12月に、港区立三田図書館、宝塚市立西図書館、枚方市立津田図書館で行われたのが最初期と思われる。ほくが知ったのはちょうどこのころだったのです。

開催した館での反響はたいへん大きく、定員20名に6倍の申し込みがあったケースもあるそうです。イベント後のアンケートでは「また参加したい」との声が多く、満足度の高さもうかがえます。

ここ数年で開催数は大幅に増え、地域的にも全国へと広がりましたが、この普及の早さは、参加する子どもたちが楽しいだけでなく、図書館員にとっても楽しく手応えのあるイベントだからではないでしょうか。

豊島区でも、2015年2月に駒込図書館で、6月に鶯巣図書館で行われています。

## イベントから絵本に

イベントを初めて知ったときから「これは絵本にしたい」と思いました。そこにある上質なファンタジーが、まさに絵本にぴったりだからです。

とくに気に入ったのは夜の図書館が舞台になっていることでした。ぬいぐるみや人形が命を得て動き出す話は昔からいろいろ語られてきましたが、その舞台として夜の図書館ほど心ざわしいものがあるでしょうか。たくさんの物語が詰まったたくさんの本が眠る場所。想像するだけでわくわくしてきます。

画家の岡田千晶さんと編集者のHさんと3人で、江戸川区立篠崎子ども図書館へ取材に行き、「ぬいぐるみおとまりかい」を開催したときの話をうかがいました。一番印象に残ったのは、ぬいぐるみとお別れするとき泣いてしまう子がいるという話でした。小さな子にとって大好きなぬいぐるみと一緒に眠れるのは、大人には想像もつかないほど大事件なのです。ちゃんと説明を受けて参加していました。

そのため図書館では告知の際、「お泊まりできる子を連れてきてね」とか、英語の場合なら「Second favorite」を持ってきてね」とか、かわいい注意書きを入れています。

読んでからイベントに参加しても、参加してから絵本を読んでも、どちらも楽しいことを目指して、絵本「ぬいぐるみおとまりかい」は2014年8月に完成しました。イベントとともに関わる絵本となりま



「ぬいぐるみおとまりかい」  
風木一人/作 岡田千晶/絵  
岩崎書店 2014年8月

# 環境対策を先導する環境庁舎

このコーナーは、新庁舎の特徴として掲げているテーマに関連した図書資料を紹介する連載です。今回は「環境対策を先導する環境庁舎」がテーマです。

でも、その前に「庁舎についておさらいをしてみましょう。建築家の隈研吾氏は、高い樹木のような建物をイメージして設計したそうです。葉っぱを生み出す「エコヴェール」は、壁面の太陽光パネルと自動水やりで植物を育てます。4階から屋上の豊島の森までは散歩道「エコミューゼ」があります。環境庁舎は、「未来に環境を残す」という強いメッセージです。庁舎は従来の建物に比べ、CO<sub>2</sub>排出量を30%も抑える効果があるそうです。

それでは、地球の環境について調べたいという皆さんにおすめの本を3冊紹介します。



『砂上の船 水上の家 アラル海とツバル ふたつの水物語』

▶ 会田法行/写真・文 ▶ ポプラ社 2010年

ウズベキスタンとカザフスタンの間にアラル海という湖があります。世界で4番目に大きいといわれた湖が、干上がって消えてしまうという問題が起こっています。水が消えてしまう所もあれば、海に沈んでしまう島もあります。ツバルは世界で4番目に小さな国で、だいたいいく区くらいの面積です。そんな島国が沈んでしまうかもしれない注目を集めました。「砂上の船 水上の家」ではツバルとアラル海ふたつの水の物語が書かれています。



『南極がこわれる』

▶ 藤原幸一/写真・文 ▶ ポプラ社 2006年

地球温暖化によって永久凍土が溶け、南極探検隊が残っていた大量のごみがペンギン達を脅かしています。ワイヤーに刺さって血だらけになっているペンギンの姿は目を覆いたくなるほど痛々しいです。ペンギンの住む南極のために何かできないかと考えさせられる1冊です。



『風の島へようこそ』

「エネルギーの島」とも呼ばれるデンマークのサムス島は、風が強い地域でした。そこで政府が、エネルギー自給自足のモデル計画としてこの島を選んだのです。最初は島民も疑心暗鬼でしたが、停電をきっかけに風力発電によって

エネルギーを自給自足するアイデアの良さを痛感し、実践し成功したのです。ごく普通の島が、自分達の作るエネルギーで暮らせる島を目指した本当のお話です。

イラストと本の紹介/庭田裕子(鶯巣図書館)



# 図書館イベント情報

★児童・あかちゃんむけ ●大人向け 今回から大人向けのイベントもこちらで案内しています。毎週、本の読み聞かせなどのイベントを行っています。遊びに来てくださいね。

- 各図書館の連絡先
- 中央図書館 3983-7861
  - 池袋図書館 3985-7981
  - 駒込図書館 休館中
  - 目白図書館 3950-7121
  - 巣鴨図書館 3910-3608
  - 千早図書館 3955-8361
  - 上池袋図書館 3940-1779
  - 雑司が谷図書貸出コーナー 3590-1335

主催/会場	おはなし会開催日		スペシャルイベント		
	幼児・小学生	あかちゃん	1月	2月	3月
中央図書館 児童コーナー (※印は会議室)	日曜日 午後2時 (1/3はお休み)	最終日曜日 午前11時	★10日・かるた会 午前11時 ※ ★31日・ボランティアによるおはなし会 (としまりみち草の会) 午後2時	★7日・おはなしこうさく会 午後2時 ●26日・図書館脱出ゲーム(要申込) 午後6時 ※	★6日・おはなしこうさく会 午後2時
巣鴨図書館 地下会議室	水曜日 午後3時	第3火曜日 午前11時	★6日・カルタ大会 午後3時	★3日・ほんのじかん こうさく 午後3時 ●21日・巣鴨キネマ 午後2時 「マダム・イン・ニューヨーク」 ★24日・ほんのじかん こうさく 午後3時	★9日・ほんのじかん えいが 午後3時 ★23日・ほんのじかん スライド 午後3時
上池袋図書館 おはなしのへや (※印は地下ホール)	水曜日 午後3時	最終水曜日 午前11時※	★6日・さくらんぼカルタ大会 午後3時※	●28日・上池袋映画会 午後2時※ 「自転車泥棒」	★2日・さくらんぼこうさくかい 午後3時※
池袋図書館 ワークルーム	土曜日 午後2時30分 (1/2はお休み)	第1水曜日 午前11時	★9日・たんぼぼカルタかい 午後2時30分 ★23日・たんぼぼえいがかい 午後2時30分 「雪渡り」(23分) ★30日・たんぼぼこうさくかい 午後2時30分	★27日・たんぼぼえいがかい 午後2時30分 「水仙月の四日」(12分)	★26日・たんぼぼえいがかい 午後2時30分 「にんぎょひめ」(20分)
目白図書館 地下区民集会所	水曜日 午後3時	第1水曜日 午前11時	★27日・しんしゅんかるたかい 午後3時	★24日・めじろシアター 午後3時	★23日・あいうえおたのしみかい 午後3時
千早図書館 視聴覚室	水曜日 午後3時30分	水曜日 午前10時30分	★13日・こどもかるたかい 午後3時30分 ●24日・ポップアップカードを作ろう(対象:大人) 午後1時、3時	★17日・ほんどこ工作会 午後3時30分	

日程・会場等が変更になることがあります。事前にお問合せください。

## 西巣鴨在住の石田勝彦さんより

落語界では弟子は断を他の師匠から習う不思議

### 『落語 師匠断』

浜 美雪/著 講談社+α文庫 2015年

紹介したい  
本  
(投稿)

落語の世界では弟子は師匠から断を教えて貰う事は少なく、他の師匠の所へ行って聴き、自らも演じて直して貰い、さらに磨きをかけて何とか高座へかけるのだと言う。信じがたい話だが、それが実情らしい。それにもかかわらず弟子の語り口、身振り、クセまで習わぬ師匠に似てくるらしい。

これに注目した著者は9組の師匠と弟子のきびしく、しかし温かい交流を取材し、その理由も明解にした本である。

師匠からみれば血もつながらぬ著者が自分を信じて飛び込んできた以上、何とかその能力を開花させ、世間様に喜んで貰えるような断家に育てあげる事に力を注ぐのは当然である。

一方、弟子も後になって、なぜあれほど師匠が怒ったのかも理解できるほど成長し、実は親以上の自分への愛情を知って感謝する時を迎える。

冬の夜、この書を手し、日本人の人情の機微を見事に演じる古典落語を聴き、ああこの部分は師匠の味を引き継いでいるなと感慨にふけるのもよろしいようで。

みなさんが読んだ本や図書館にまつわるエピソードなどを募集しています。あて先は、豊島区立中央図書館「図書館通信おたより係」へ

## 特別講演会 トークライブ

### 「本とどうつきあうか ~捨てる本、死ぬまで捨てない本~」

『百歳までの読書術』の著者、読書人にして編集人、元大学図書館長の津野海太郎氏にお話いただきます。対話形式ですので、みなさんもお気軽にご質問してください。

日時 平成28年1月23日(土曜日) 午後2時~4時

会場 あうるすぽっと会議室B (東池袋4-5-2 ライズアリーナビル3階)

講師 津野海太郎 氏/評論家、元和光大学教授・図書館長

定員 100名(先着順) 参加費 無料 申込方法 下記をご覧ください



## 地域研究ゼミナール

### 「(仮) 巣鴨あちらこちら」

巣鴨周辺の知られざる地域史などに関して学び、知識を深める講座です。

日時 平成28年2月20日、2月27日、3月5日(土曜日) 午後2時~4時 ※27日は街歩きの予定です。

会場 あうるすぽっと会議室Bほか

講師 宇埜 正純 氏/元タウン誌「巣鴨百選」編集長、伊藤 栄洪 氏/豊島区図書館専門研究員

定員 40名(2月1日より受付、先着順) 参加費 500円

#### 特別講演会・地域研究ゼミナール

申込方法 電話、直接来館、Eメール等で

問い合わせ 中央図書館企画調整グループ

☎3983-7861 ファクス: 3983-9904

メール: A0027900@city.toshima.lg.jp

## 子どもの読書に関する講習会

### 「紙芝居の魅力とその秘密」

日時 平成28年2月12日(金曜日) 午前10時~12時

会場 あうるすぽっと会議室B

講師 日下部 茂子 氏/元童心社編集者

対象 区内の施設などで子どもたちに読み聞かせ活動をしている方

問い合わせ 中央図書館児童・YAグループ

定員 70名 参加費 無料

申込期限 1月30日必着

申込方法 中央図書館あてに往復はがきにて(多数の場合抽選)



## 中央図書館 巣鴨・池袋・目白図書館 上池袋・千早図書館 雑司が谷図書貸出コーナー

中央図書館	巣鴨・池袋・目白図書館	上池袋・千早図書館	雑司が谷図書貸出コーナー
●開館時間● 平日 午前10時~午後10時 土日祝 午前10時~午後6時	●開館時間● 平日 午前9時~午後7時 土日祝 午前9時~午後6時	●開館時間● 平日 午前9時~午後7時 土日祝 午前9時~午後6時	●開館時間● 平日 午前10時~午後7時 土日祝 午前10時~午後5時
日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土
3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

## 図書館カレンダー

## 千早図書館友の会主催 「千早進歩自由夢月例会」

- ◆1月例会 演奏会「バイオリン二重奏の世界」  
日時 平成28年1月30日(土) 午後2時~4時(開場:1時30分)  
演奏 佐藤美代子氏、三好明子氏  
曲目 スヴェンセン(ロマンス)、田辺恒弥(戯れる蝶)、玉木宏樹木(二人のフィードラー)、露伴(長女・延)の作品等を解説入りで演奏させていただきます。  
定員 50名(先着順) ※小学生以上
  - ◆2月例会 落語会  
日時 平成28年2月20日(土) 午前10時~12時(開場:9時30分)  
出演 三遊亭怒輝 師匠  
内容 毎年恒例の落語会。演題等は当日のお楽しみです。  
定員 50名(先着順)
- 会場 千早図書館 2階 視聴覚室  
問い合わせ 千早図書館友の会  
千早図書館 ☎3955-8361

## 編集後記

あけましておめでとうございます。寒い冬にはあつあつの焼きミカンがおいしいですね。体も温まって風邪も吹き飛ばします。今年も一年、元気に過ごしたいものです。(辻)